

目次

学修関連

提言 2-1	T2SCHOLAの機能改善.....	1
提言 2-2	授業学修アンケートの実効性の確保.....	2
提言 2-3	教職課程に対する認識の改善.....	3
提言 2-4	成績評価制度の改善.....	3
提言 2-5	各学院・系・コースの専門性を踏まえた就職支援の強化について.....	5
提言 2-6	シラバスの改善.....	5
提言 2-7	1、2Q間及び3、4Q間におけるクォーター間休みの設定.....	6
提言 2-8	教育改革の効果検証の実施.....	6
提言 2-9	教養科目の改善について.....	7
提言 2-10	対面授業での録画配信の継続.....	8
提言 2-11	英語開講科目に関する改善要求.....	8

施設関連

提言 3-1	石川台地区へのキッチンカーの誘致、キッチンカーの料理の低価格化.....	9
提言 3-2	Taki Plazaの席数の拡充.....	10
提言 3-3	生協食堂メニューの見直し.....	10
提言 3-4	体育館アリーナにおける冷房の設置.....	11
提言 3-5	キャンパス内屋外エリアへのゴミ箱の設置.....	11

サービス関連

提言 4-1	証明書発行手続きの簡略化.....	12
提言 4-2	学生勤務報告書のペーパーレス化.....	12
提言 4-3	学生向けAdobeアカウントの導入に向けた支援.....	13
提言 4-4	奨学金や就活情報の発信強化.....	13
提言 4-5	留学に関する現行の制度の継続・強化.....	14
提言 4-6	コロナ収束後のオンライン留学の継続.....	15
提言 4-7	留学中における医療体制バックアップの周知(コロナ禍前後を通じて).....	15

その他

提言 5-1	防災訓練前の動画による広報.....	16
提言 5-2	Work Podのすずかけ台キャンパスへの設置・用途の拡大.....	16
提言 5-3	生理用品の無料配布.....	17
提言 5-4	高校生と大学生向けの公開講座の開講.....	17

学勢調査 2022 大学の対応

提言 2-1 T2SCHOLAの機能改善

提言

1. 課題の一覧、週ごとの講義情報が見られるカレンダーをトップページに配置することを、T2SCHOLAで実施する、もしくは大学統合後の学修システム導入時に検討する。
2. PC版T2SCHOLAでのサイドメニューの表記並びに要望まとめにある細かな要望について機能改善を行う。
3. T2SCHOLAのホーム画面下部にある問い合わせに、操作質問だけでなく「T2SCHOLAへの要望やバグ報告も受け付ける」旨を明記する。

対応策・実施方法

【提言1について】

課題等の一覧を表示するタイムライン機能、および課題等の締切を表示するカレンダー機能は既にT2SCHOLAにて提供しています。本学の授業日程では、不定期に別の曜日の授業を行う授業日が設定されます。また、各授業では休講が設定されることもあります。

しかし、教務系システムではこれらの変更を含めたカレンダーデータ（日付・時間に基づく授業開講情報）は保持・管理していません。このため、「週ごとの講義情報が見られるカレンダー」の実装は困難です。当初のキャンパスミーティングで挙げられていた「時間割（曜日ごとの授業一覧表）」については、大学統合後の学修システムで実現できるかを検討いたします。

なお、表示箇所も検討いたしますが、ベースであるLMS（Moodle）の制約がありトップページに配置することが難しい場合があります。

【提言2について】

2023年度バージョンで、サイドメニューは廃止となりました。また、「要望まとめ」でいただいている要望について検討した結果は以下のとおりです。

- 対応済みの項目
 - ・ 授業中の小テストなどでもT2SCHOLAを使用するので、セッション切れを遅くしてほしい。
⇒ 設定変更にて対応
- 実現できている項目（2023年度バージョンで対応ができた項目を含む）
 - ・ 課題のリマインド機能（新課題登録時・締め切りが迫ってきたときの通知）が欲しい。
⇒ 締切が近づいたときのリマインド（通知）はスマホアプリにて利用可能。
 - ・ T2SCHOLA上で更新された情報について、逐一メールで通知して欲しい。
⇒ 教員が設定した場合に通知される機能が2023年度バージョンより利用可能。
 - ・ 受けている授業の検索がしづらい。マイコースから検索するときは検索範囲をマイコースに限定して欲しい。
⇒ マイコースから検索するとそのような挙動になる。
 - ・ 課題提出完了の通知をオフにしたい。
⇒ 設定変更で可能。
- 対応が難しく、検討する必要がある項目

- ・ スマホ版のT2SCHOLAが見づらい。
⇒ スマホアプリの挙動や機能は基本的にMoodle標準であるため、改修は難しい。
- 対応不能
 - ・ ログインが手間。
⇒ 現在の本学認証基盤やその運用ポリシーとも関係するため、現時点では対応は難しい。
 - ・ PC版でクォーターにまたがる授業が片方のクォーターの欄でしか表示されない。例えば1、2Q開講の授業が1Qの方にしか表示されないのを両方に表示して欲しい。
⇒ 現状は連携データの構造上、一つのQに紐付けることしかできない。
大学統合後のLMSで実現できるか検討。
 - ・ 各授業のページでZoomのURLを掲載して欲しい。
⇒ 授業方式は一律ではなく、各教員の対応に委ねられる。全ての授業でZoomを利用するわけではないので、システム全体でZoomと連携するなどの対応は難しい。
 - ・ 資料をダウンロードするとき、PDFを新規タブで開くように統一して欲しい。
⇒ 各コースにおいてファイルごとに教員が実施する設定であるため、システム側での一律の設定は難しい。また、PDFビューワーの設定など、利用者環境にも依存する可能性がある。
 - ・ 資料をダウンロードするとき、日本語が文字化けする。
⇒ Moodleの仕様に加え、利用者環境に依存するため対応は難しい。
 - ・ 授業数が多いと画面のロードが非常に遅い。
⇒ 過去の授業データを削除するなど、運用を大幅に変更する必要がある。大学統合後のLMSで実現できるか検討。
 - ・ マイコースには過去の授業を表示しないで欲しい。
⇒ 上述の項目と同様に定期的に過去授業データを削除するなど、運用を大幅に変更する必要がある。大学統合後のLMSで実現できるか検討。
 - ・ 教員とT2SCHOLA上でコミュニケーションが取れるようにして欲しい。
⇒ フォーラム設置等は各教員の対応に委ねられる。

【提言3について】

システムの仕様や運用ポリシー等により回答が難しいことがありますので、明記することはご容赦いただきたいと思います。要望等については問い合わせ先にご連絡ください。（要望に応えられないこともあります）

提言 2-2 授業学修アンケートの実効性の確保

提言

1. 現在、授業学修アンケート結果の公開にかかっている制限（教員の許可が必須であること、履修者のみが閲覧可能であること、一定の期間限定の公開である事）を撤廃する。
2. 授業学修アンケート結果の公開時、類似科目や他のクラスの結果の平均などを併記する。
3. 履修完了者だけでなく、何らかの理由で履修をあきらめた学生もアンケートに回答できるようにする。

対応策・実施方法

【提言1について】

教員の積極的な公開を促すために2023年度2Q実施分よりデフォルト値を「公開」に変更いたしました。履修者以外への公開など、公開範囲については今後学内で議論を重ねて参ります。なお、公開期間の制限は、現在の実施システムの契約が単年度契約であり、次年度以降の公開が保証できないためです。

【提言2について】

現状は各科目ごとの類似科目が明確に定義することはできませんので、当該科目と共に併記することはできません。同一科目の全クラス平均等の公開については、今後学内で議論を進めて参ります。

【提言3について】

授業学修アンケートは、当該授業を履修した学修者の振り返りとして位置づけられています。このため、授業を最後まで履修した学習者のみが対象となります。

提言 2－3 教職課程に対する認識の改善

提言

1. 教育工学の前提試験及び中間試験の難易度調整
2. 中間試験不合格者に対する補講の実施や補助課題の配布
3. 授業アンケートの一般への公表（学内）、履修登録をした学生への授業アンケートの回答権の付与
 - ・ 各先生方に講義内容が一任されているために、本講義のように学生に不利益が被っている他講義に関しても、授業アンケートを公開することで講義内容の改善の一助になると考えられる。もちろん最終的な判断を下すのは講義担当者であるが、学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

対応策・実施方法

【提言1について】

教職科目については、文部科学省が教職課程コアカリキュラムで各科目の到達目標を定めています。そのため、難易度を下げることが、適切ではないと考えています。前提試験の例題は1年中公開されており、多くはそこから出題され、20問中10問を選択する方式で行っています。

【提言2について】

中間試験の例題を1年中公開し、それを活用して試験に臨むよう指導しています。

【提言3について】

履修者以外への公開など、公開範囲については今後学内で議論を重ねて参ります。また、授業学修アンケートは、当該授業を履修した学修者の振り返りとして位置づけられています。このため、授業を最後まで履修した学修者のみが対象となります。

提言 2－4 成績評価制度の改善

提言

一つ目の生命理工学院の研究室配属についての提言は次の通りです。CAP制度を半期ごとに設定することは、柔軟な履修計画を妨げる可能性がある一方で、学修時間を十分にとるために可

能な改善案だと考えます。学生の希望する履修計画の希望を叶えるために、年間の上限単位数の半分で設定するのではなく、年間の上限単位数の制限は維持したうえで、新たに半期ごとに上限単位数を設定することが良いと考えます。その上限は年間上限単位数の半分以上も多いが、無理のない単位数に設定すべきと考えます。

あるいは、GPTではなく、GPAを用いる決定方法かGPTのみでなくGPAも併用する決定方法を用いることでどちらかのみを用いた場合の問題を解決することは可能です。また、選択必修科目を設定するなど、ある程度の自由さを保ちつつも、幅広い科目を受講してもらうことはGPAを用いた場合でも可能だと考えられます。

1. CAP制度を半期ごとに設定する。柔軟な履修計画を望む学生のことを考慮し、年間の申告単位上限は維持しつつも、新たに半期ごとに申告できる単位数に上限をつける。
2. 生命理工学院の研究室所属に用いる成績評価をGPAにする。またはGPAとGPTを併用するなど、GPTのみで研究室所属を決定する仕組みを変更する。GPAのみを用いる場合は、選択必修科目を設定するなど、学修すべき科目を履修するような制度を新たに加える。

二つ目の他の大学(四大学連合の提携大学)で取得した単位の評価に関する意見について提言は次の通りです。CAP制度は、学修時間を確保して内容をしっかり身につけることを目的としているため、他の大学で履修する授業の単位も計算することは妥当だと考えられます。成績評価制度は、本学の点数による評価とは異なりますが、評語とGPの対応表はあり、段階評価を点数に反映することも可能だと考えます。段階評価の点数の反映が難しかったとしても、「合格」又は「不合格」による評価が可能であるため、GPTの算出に用いることは可能だと考えます。

3. 他の大学における授業科目の単位認定が認められた場合、GPT・GPA制度の対象科目とする。段階評価は他の大学の成績評価とGPの対応に沿った評価を行う。「合格」または「不合格」で学修の評価が行われる場合は、GPTの算出に用いる。

対応策・実施方法

【生命理工学院の研究室配属についての提言への回答】

以前のGPA使用時には、必要性よりも点数の取りやすさを優先して科目を選択する、試験で高得点が採れなかった場合には履修取り消しを要求する、などの問題が生じていました。また、そうした基準で選択した科目を中心に卒業必要単位数ぎりぎりしか履修しない学生も多数いました。GPTの導入以後、これらの点について大幅に改善された一方で、各科目をしっかりと勉強することよりも単位数を稼ぐことを優先する傾向が年々強まっていることは認識しています。そこで生命理工学院では、2022年度入学の学生から、研究室仮配属には、GPT (= GPA x 総単位数 ÷ 110) ではなく、修正GPT (「総単位数」を2.5年相当のCAP上限単位数以下に設定) を用いることにしました。これによって単位取得競争が緩和され、留学や四大学連合の授業が履修しやすくなることを期待します。

【他の大学(四大学連合の提携大学)で取得した単位の評価に関する意見についての提言への回答】

成績評価に関しては、他大学の授業科目の場合、本学における成績評価の基準や成績評価方法とは異なることがあるため、単位修得した場合の成績評価は全て「認定」となっています。そのため、GPA、GPTに算入することはできません。

提言2-5 各学院・系・コースの専門性を踏まえた就職支援の強化について

提言

未来人材育成部門開催のキャリアイベントのお知らせが全学生へ送付されるようになったことで、学士課程の学生もキャリア関連の情報を得やすくなったと考えられます。一方で、専門を生かした就職や起業に関しては各系・コースでの情報伝達が十分であるとは言えません。したがって、学生への情報伝達を促進するために、以下の提言をします。

1. 各学院・系・コース等で行われているキャリアイベントについて、その学院・系・コースに所属する学生全員が参加できるようにする。
2. イベント関連の、お知らせを系・コースの全学生へメールで送付する。

対応策・実施方法

今回いただいた1.2の提言に関し、「就職担当教員情報交換会」で共有します。その上で、各学院・系・コースで行われているキャリアイベントに関して、イベントの内容や参加への呼びかけの方法・周知方法等について良い事例の情報共有を行い、学年を問わず適切な情報が届き、学生全員が就職関連イベントにより参加しやすくなるよう、就職担当教職員に働きかけます。

提言2-6 シラバスの改善

提言

1. 教員向けシラバス作成のガイドラインを改善する。
⇒現在、シラバスの作成趣旨と例示による説明が公開されていますが、授業の開講元や教員によってシラバスへの対応に差が出てしまっています。そしてその差は、学生の受講態度や成績評価に対する不満の違いを生み出しています。また、シラバスの公開が遅れてしまう原因として教員が多忙でシラバスを作成する時間がないことも考えられます。他大学にあるような具体的な例示を用いたシラバスや授業紹介動画は、学生にとって分かりやすいだけでなく、教員にとっても短時間で授業に関する正確な情報を提供できる点でメリットがあるものと考えます。具体的には、シラバスの重要性を強調し、教員に履修登録が開始される1週間前までにはシラバスを公開しておくことを強調することと、成績評価の基準について具体的に明記すること、また、授業紹介動画の作成を推奨することです。
2. シラバスの公開について管理体制を強化する。
⇒一部の科目においてはシラバスが公開される前に授業が始まるという事態が生じており、学生が授業内容や評価基準等についてよくわからないまま履修登録をせざるを得ない状況が起きています。履修登録が開始される少なくとも1週間前までにシラバスを公開しておくことで、学生のミスマッチを防ぎ、学修に好影響をもたらすことができます。具体的には、教員が1週間前までにシラバスを公開するように管理体制を見直すことなどが挙げられます。

対応策・実施方法

【提言1について】

2016年の教育改革によるカリキュラムの一新を機に、シラバス作成のガイドラインを策定し、全学FD（Faculty Development）研修等にて説明を行う等、当該ガイドラインに基づくシラバスの作成指導を徹底して行ってきました。

しかし、教育改革の始動から6年が経過し、時間の経過とともに、一部ではこれらが十分に機能しなくなってきた側面があるため、関係の教員会議等により、全教員に対し、再度周知徹底を図っていきます。

【提言2について】

教育改革以来、本学では「シラバスチェック担当教員」制度を定めており、系・コース内から「シラバスチェック担当教員」をそれぞれ授業科目ごとに配置し、授業担当教員が作成したシラバスを当該教員が確認する管理体制を整えております。

各授業科目担当教員が教務WEBシステムに入力後、シラバスチェック担当教員による確認を経て、学生に公開される仕組みです。

しかし、教育改革の始動から6年が経過し、時間の経過とともに、一部ではこれらが十分に機能なくなってきた側面があるため、当該年度開始前までの公開の徹底など管理体制の厳格化について関係の教員会議等により、全教員に対し、再度周知徹底を図っていきます。

提言 2－7 1、2Q間及び3、4Q間におけるクォーター間休みの設定

提言

1. 第1クォーター及び第3クォーターの期末試験期間後に土日を含めて3～4日の「クォーター間休み」を設定する
⇒クォーター制の本来の目的である「短い期間で集中的に学ぶことで学修効果を高めること」を達成するためには、学生が前クォーターで学んだことを復習し、課題を持ち越さずに次クォーターの学修に備えることが重要です。そのために土日を含めて3～4日の「クォーター間休み」を設定することを提言いたします。前回の学勢調査2020の提言では、1週間程度の休みを設定することを提言いたしましたが、その場合は、長期休暇が大きく短縮されるため、長期休暇における学生や教員の研究活動や課外活動、留学やインターンシップといった活動に支障が出るため適切ではない、とご回答頂きました。今回の提言は、土日を含めて3～4日と前回より短い日数です。長期休暇の削減は、避けられませんが、学勢調査2020の提言と比較すると削減する日数は少なくなるものと考えます。また、2016年度に実際に実施されていた日数であることから、法令上の観点からも単位認定の要件を満たすことができる実現可能性が高い提言であると考えます。具体的には、土曜を含め3、4日休みを設定していた2016年度の日程を参考にした授業日程に変更することを提案いたします。

対応策・実施方法

夏休みなどの長期休暇をなるべく長く確保し、学生や教員の皆さんの研究活動や課外活動、留学やインターンシップなどの活動に有効に活用いただきたいと思います。クォーター休みを確保する代わりに長期休暇を短縮することは、総合的に判断して適切ではないと考えています。

提言 2－8 教育改革の効果検証の実施

提言

1. 2016年におこなわれた教育改革に対する効果を検証し、その結果を公開する。
⇒教務課とのキャンパスミーティングで言及があったヒアリング調査についての報告書を公開し、学内外に広く周知することを提言いたします。また、卒業生・修了生アンケートについても経年変化を分析し、そこからわかる教育改革の効果について報告書をまとめ、公開することも提言いたします。報告書の公開は、学生の声を大学運営により反映させるために必要不可欠なことであり、調査結果を広く周知することは学生と大学側でコミュニケーションが生まれるきっかけとなると考えます。学生と大学側で活発で建設的な議論を行うためにも教育改革の効果検証とその結果の公開を強く望みます。

対応策・実施方法

教育改革後6年を経た現状について、教育本部によるアンケートやヒアリング等の調査に基づく効果検証作業が完了し、現在、公開に向けて報告書作成の準備を進めております。今年度の秋を目途にHP等で学内外に公開予定です。

提言 2－9 教養科目の改善について

提言

1. 文系教養科目のカリキュラムについて随時改善する
⇒これまでの授業評価アンケートなどを用いた授業改善に加えて、新しく学生のニーズに合わせた科目やコースを開講することのお話がキャンパスミーティングでありましたので、科目の新規開講や統廃合などを1年ごとに検討・実施することを提言いたします。また、学生にその改善が分かるよう、報告書を作成して公開することも合わせて提言いたします。

対応策・実施方法

2016年度の教育改革でリベラルアーツ研究教育院に新たに導入された「教養コア学修科目」をはじめとする文系教養科目の成果検証のため、毎年アンケート調査やインタビュー調査を実施し、科目運営ワーキンググループや科目担当教員が検討を重ねる中で、以下のような改善を行ってきました。

- ・ 教養教育の意義を実感できるよう、科目共通のシラバスや授業スライドの中で、授業の中で身につけてほしい力について、理工系の研究活動とも関連付けた説明を行う（東工大立志プロジェクト、教養卒論、リーダーシップ道場）
- ・ 講演講師の選定に際して、視野を広げることと理工系の分野と関連のある話題提供とのバランスを工夫した構成にする（東工大立志プロジェクト）
- ・ 学問知の提供とコミュニケーションや協働作業のための力の育成とを両立できるよう、授業コンテンツを充実させる（リーダーシップ道場、教養先端科目、越境型教養科目）
- ・ 100番台科目の得点分布の調整を実施（文系教養科目）

このような改善を経て、アンケート調査での評価は年々上昇してきていますが、教養教育の意義を感じないとする意見があることも承知しています。引き続き授業改善の取り組みを続けていくとともに、東工大の教養教育のカリキュラムに込められたねらいが伝わるよう、情報発信をしていきたいと考えています。

なお、これまで要望が寄せられていた博士課程における文系教養科目の履修の選択肢を増やすことについては、来年度から実現できそうな見通しです。「文理共創科目」として新たに複数の科目を開講し、学問領域を横断する研究の最前線の議論に参加できる場を提供する予定です。

これまでは、意見の聴取と授業改善に手一杯だったこともあり、ご提言いただいた授業改善

がわかる報告書の作成については、今後検討していきたいと考えています。

提言 2-10 対面授業での録画配信の継続

提言

コロナ禍により、対面授業の機会が失われオンライン授業へと全面的に移行せざるをえなかった時がありました。対面授業でしか行えない教育はあるとは思いますが、オンライン授業化したことで、対面授業のみしかなかったときと比べて録画配信が増えたために復習しやすくなったという良い点もあると思います。対面授業では、機器の関係上、また対面授業の運用上、録画配信をする上での課題はあると思いますが、以下の2つの提言をします。

1. 対面授業でも、特に需要の大きい座学の科目や英語開講科目について録画配信を増やしていくこと。
2. 対面講義を録画する機器を貸し出せる環境を整えること。

対応策・実施方法

【提言1について】

コロナ禍を経て、本学は対面での教育を重視することとしております。対面による授業は集中して聴くという効果があり、その一方で授業を録画すると、集中して聴かなくなるという負の面があります。そのため、賛否両論はありますが、現在のところ、本学では前者を重視し、授業の録画配信を増やしていく予定はありません。詳細は、教育本部サイトの「アフターコロナの新しい教育の在り方について」をご確認ください。

<https://www.eduplan.titech.ac.jp/disclose/pagelink-purpose-pagelast/aftercorona/>

【提言2について】

1番とも関連して、予算の範囲内でハイフレックス講義室を増やしたいとは考えておりますが、慎重に検討します。なお、これらを増やしていくには、録画機器を購入・管理したり、実際に操作できる人を育成したりすることが必要になるため、費用や時間がかかることはご理解ください。

提言 2-11 英語開講科目に関する改善要求

提言

大学院課程での専門科目が原則英語開講であることに対し、多くの学生から不満や不安の声が挙げられました。これからグローバル化がより進んでいく中で英語力を身に着けることは重要なことであるため、自身の英語力に対する不安や教員の英語力に対する不満を少しでも解消できるように以下の点を提言いたします。

1. 授業評価アンケート内で教員の説明力・英語力等の設問を追加し、著しくスコアが低い教員については現在行われている教員を対象にした英語の研修への参加を必須とするなど対策を取る
2. 学士課程の専門科目講義から資料に専門用語の英語を載せるなど工夫を行い、大学院課程を見据えた対策を行っていく
3. 学生が英語開講科目のレベルを自身で判断し、講義の受講をしやすくするため、シラバスの開講言語について「講義説明」「講義資料」「グループワーク」と項目を分け表示する

対応策・実施方法

【提言1について】

英語レベルに応じた英語研修の実施回数を増やすなど参加しやすい環境を整え、教員の授業改善を支援しています。さらに、英語研修だけでなく、学修者中心の英語による教授法の紹介など多様な研修プログラムを実施しています。今後、英語開講科目の改善に向けて、授業学修アンケートの項目等の検討を学内で進めて参ります。

【提言2について】

大学院課程を見据えた学士課程における英語教育については、現在、教育本部内に専門のWGを設置し、検討しているところです。

【提言3について】

原則として、英語開講科目は、講義説明も講義資料もすべて英語です。なお、シラバスの記載項目を過度に細分化すると、シラバス自体が見にくくなる等、デメリットの方が大きいと考えられるため、シラバスの開講言語の項目を変更する予定は特にありません。

提言3-1 石川台地区へのキッチンカーの誘致、キッチンカーの料理の低価格化 提言

1. 石川台地区、大岡山南地区をターゲットにした石川台地区へのキッチンカー出店の再トライアルの実施。
⇒2022年7月にトライアルを実施した時点では対面授業も増えてきていましたが、まだオンライン授業の割合も高かったため、出校制限のない現在のキャンパスの状況とは違えます。そのため、キッチンカーのトライアル出店についての周知を徹底した上でもう一度トライアルを実施し、採算が取れるかどうかの検証を行うべきだと考えます。
2. 学生のニーズに合わせた低価格の料理を販売するキッチンカー出店のためのアンケートを実施する。
⇒価格が高いという意見が学生から多く寄せられている一方で、原材料高騰などの社会情勢上、キッチンカーの経営も難しいように思います。そのため、一度キッチンカーに関するアンケート調査を行い、キッチンカーに対する学生からのニーズなどを確認することにより、キャンパス内でのキッチンカーの立ち位置を改めて明確にすることが必要だと考えます。

対応策・実施方法

キッチンカー運営業者と相談し以下の通り、実施予定です。

【提言1について】

- ・ 本部棟横のキッチンカーとは別枠での出店者の募集・誘致を行う
- ・ 各曜日にて、本部棟横のキッチンカー出店メニューとの競合は極力避け、手配する。※選択肢の幅が広がるため
- ・ 第1クォーターもしくは第3クォーターの開始時期4月または10月にトライアルスタートをする。
※季節的にもキッチンカーの利用率が上がりやすく・学生含め多くの人出が予想されるため

【提言2について】

キッチンカーの商品の提供価格につきましては、商材仕入れ値の高騰などの影響により、600円台は勿論、700円台での提供も厳しい昨今ですので、ご意見をいただいた価格での提供は、恐

らくキッチンカーでは厳しい部分もあるかと思えます。出店いただいている店舗については、可能な限り大学限定のサービス(大学限定メニュー、学生限定料金、ごはん大盛り無料)などをご対応いただき、少しでも学生の負担が軽減されるよう協力いただいておりますのでご理解ください。

提言3-2 Taki Plazaの席数の拡充

提言

1. 地下2階と地下1階をつなぐ部分の大階段に座ることが可能であることを周知する。また、大階段に座ることを促すため、誰でも自由に使える座布団などを階段前に用意する。
⇒Taki Plazaの地下2階と地下1階をつなぐ部分の大階段は座って利用することが可能ですが、現状学生内での周知が不十分であるように思われます。また、地面に座ることに抵抗のある学生もいると考えられるので、利用を促すと同時に座布団などを用意することで、そのような学生への利用も促すことができます。これにより、Taki Plaza内の総座席数を増やすことができ、学生の交流の場というTaki Plazaの設置趣旨も満たすことができます。
2. 地下2階に大型の机(6~8席)を設置する。
⇒大型の机は、複数のグループで座ることが可能であり、また1人の方も抵抗なく利用することができると思えます。

対応策・実施方法

【提言1について】

大階段に座ることが可能であると周知するため、誰でも自由に使える座布団の設置を検討しています。10月2日に西5号館2階に新学生食堂「つばめテラス」がオープンすることを受け、オープン後のTaki Plazaの混雑状況や利用状況を考慮した上で、設置する予定です。

【提言2について】

Taki Plaza地下2階に大型の机を新たに設置するのは、スペース上困難です。一人席としては後方の石灰岩の近くに長椅子と丸テーブルを用意しています。また、座席は必要に応じて動かしていただき、自由にお使いいただければと思います。

提言3-3 生協食堂メニューの見直し

提言

1. 生協食堂のメニューに、量に対するコスパ重視の東工大オリジナルメニューを追加する
 2. 丼ものの具材を大きくする
 3. アンケートをこまめに実施したり意見箱を設置したりすることで、学生の意見を細かく反映する(特定のメニューに対して等)
- ⇒オリジナルメニューの選定の際には、アンケートにより学生から意見を募ることを提案いたします。そのアンケートの実施・集計に学生が参加することも検討しております。
- 丼ものの具材を大きくすることに関しましては、値上げがやむを得ない場合、その分具材が大きくなったと感じられることが必要だと考えております。
- 特に1つ目につきまして、コロナ禍や物価高騰などの社会情勢により生協側の経営状況も厳しいかとは思いますが、学生の生活支援のため、是非ともご検討頂きますよう、よろしく願いいたします。

対応策・実施方法

生協のメニューは、定番に加えて年4回の季節商品・長期休みを除く年9回のフェア（例：10月ワールドメニューフェア・11月北海道フェアなど）を実施し、利用者へ飽きの来ないメニュー提供を心がけています。

【提言1、3について】

東工大オリジナルメニュー開発へ、ぜひご協力をお願いします。意見箱は生協「声カード」を皆様に分かりやすくご記入いただけるように改善をしていきます。

【提言2について】

井ものの具材は、基本的に大学生協全体で仕入、下調理済みの食材を利用している場合が多く、単純に大きくすることは難しい状況です。

提言3－4 体育館アリーナにおける冷房の設置

提言

1. 体育館アリーナへのスポットエアコンの導入
⇒コストを考慮して、比較的成本の小さいスポットエアコンの導入を提言します。一般的なスポットエアコンは体育館のような広い空間では効果が少ないとされることもありますが、現状分析で述べたような体育館向けのスポットバズーカのようなスポットエアコンであれば、コストを抑えた上で、暑さ対策として非常に有効であると思われれます。また、費用対効果に懸念があるようであれば、まずはリース方式などの方法も検討することで、より費用を抑えた導入が可能であると考えます。

対応策・実施方法

施設運営部にアリーナへのエアコンの設置方法について相談した。いくつかの設置方式のうち、効率と予算の面から、提言にあったとおり、スポットエアコンの設置について検討を進めている。まずは業者による現地調査を予定しており、設置提案と見積金額を受け、設置予算の確保を目指す。

提言3－5 キャンパス内屋外エリアへのゴミ箱の設置

提言

1. キャンパス内屋外エリアへの容量の大きいゴミ箱の設置
⇒キャンパス内の屋外エリアにゴミ箱を再設置することで、利便性の向上、ポイ捨ての防止などが期待できます。また容量の大きいゴミ箱を設置することによって、ゴミが溢れ出すなどの問題に対応することが可能であると思われれます。また、場合によって中身の見えるゴミ箱や防鳥のゴミ箱を導入することで、防犯や動物によるゴミの荒らしに対応可能だと考えます。

対応策・実施方法

屋外エリアのゴミ箱を撤去した背景として、①カラス等の被害を防ぐ②テロ等の対策③ゴミ捨てのルールが守られない（学外から持ち込まれたゴミが多い）ことが挙げられます。その中で一番問題なのが、学外から持ち込まれたゴミが多いことです。具体的には学内で犬の散歩を行う人が捨てる犬の糞や仕分け不十分のゴミが捨てられることがあり、このことにより仕分け

不十分のことから、業者がゴミを回収できないことに繋がっております。
本学は他大学とは異なり、近隣住民等が多く利用しております。そのため、学内外併せて屋外ゴミ箱のルールを徹底することが難しい状況であり、屋外のゴミ箱を設置することが困難であると考えております。（屋外ゴミ箱のルールに関する注意喚起をすることはできますが、それでもルールを守らない方がいることが想定されます。その結果、構内環境の悪化につながると考えております。）

提言 4-1 証明書発行手続きの簡略化

提言

1. 証明書自動発行機で、博士後期課程に在学中の本学の学生が修士課程の成績証明書および修了証明書を発行できるように提言します。
⇒現状の証明書自動発行機は、博士後期課程の成績証明書・修了証明書に対応していないため、発行機の刷新を提言します。
2. 現在PDFへの対応は個別でできていることから、今後海外の大学院への出願件数の増加といった需要が増えた場合にオンライン化を検討することを提言します。

対応策・実施方法

【提言1について】

博士後期課程と修士課程修了者の成績証明書には、論文の題目が記載されるようになっていますが、題目は画像データであるため、また、博士後期課程と修士課程の連携ができないため、現行の自動発行機では印字できません。今後、検討いたします。

【提言2について】

本学では、偽造防止用紙を使用しているため、原則原本での発行としていますが、海外在住者などで希望される場合は、PDFデータでの発行も対応しております。オンライン申請は現在のところ検討しておりませんが、今後の課題と考えております。

提言 4-2 学生勤務報告書のペーパーレス化

提言

1. 学生勤務報告書のオンライン手続きのシステム導入を提言いたします。
⇒人事課労務室からの回答にもありましたように、大学統合による勤務制度の検討が必要のため、オンラインでの学生の勤務管理は難しいと考えます。そこで、大学統合までの期間は、暫定的に全学で現行の勤務報告書をメールやSlackでの提出が可能にさせていただきたいです。
⇒大学統合後にオンラインでの勤怠管理システムを学生へとすみやかに拡大をお願いします。

対応策・実施方法

現在、本学と東京医科歯科大学の両大学の人事制度及び勤怠管理システムの現状を共有し、統合に向けシステム構築・運用について検討中です。学生の勤務報告書は複数の教員が承認者となることが多いこと及び不正防止の観点も踏まえて検討します。

また、現在の勤務報告書のメール等での提出については関係部署と連携し検討予定です。

提言4-3 学生向けAdobeアカウントの導入に向けた支援

提言

1. 学生用ライセンスパックの導入
⇒まず初めに、Adobe CCを個人PCへの導入を希望する学生数の把握。その後、希望する学生数が多い場合、希望する学生の代表となる学生有志団体の設立を呼びかける。
※学生有志団体：希望する学生の取りまとめや、不正利用対策や学生用ライセンスパックの販売方法の検討など、大学の関係部署と学生との調整役として導入に向けて主体的に動く団体。

対応策・実施方法

【対応策】

学生用ライセンスパックの導入には最低30名の購入希望者が必要である。そのため、まずは有償での購入希望者数の把握を行い、一定数の購入希望者がいる場合は小規模での学生用ライセンスパックの導入テストを行い、本格的な実施へ向けての問題点の洗い出しを行う。

【実施方法】

1. 潜在的な購入希望者数を把握するため、Slackでの購入希望調査アンケートを行う準備を進めている。なお、学生のSlackアカウント取得率がまだ十分でないため、アナウンスは別途全学通知でも実施し、メールでのアンケートの回答も受け付ける。
2. その結果を踏まえて、小規模(40人程度)の購入希望者に対して学生用ライセンスパックの導入テストを行う。導入テストについても全学通知でのアナウンスは行うが、金銭授受があるため確実な本人確認が可能なSlackを利用することを想定している。

提言4-4 奨学金や就活情報の発信強化

提言

1. 既存の仕組み（ホームページや学院や系の相談窓口など）の広報や認知度の向上に向けた取り組みの実施を強化する。
⇒全学利用のSlackを活用し、「#修士_奨学金」や「#博士_就活情報」といったチャンネル分けをし、希望者が参加する形に。
2. （学生支援センター未来育成人材部門・キャリア）内定者と就活生の交流の機会を増やす。
⇒2022年9/21, 22に実施された「夏休みキャリアガイダンス～就活を終えた先輩の話を聞こう～」のようなイベントの開催回数を増やし、学生間での情報共有や、内定者を通して就活生に向けた就職イベントの広報などを実施。
○就職活動の経験を後輩に伝えたいとの声があり、就活生にとって同じバックグラウンドを持つ先輩の体験談が非常に参考になる。

対応策・実施方法

【提言1について】

- ・ 奨学金の情報について、Slackを利用した周知方法を検討いたしました。10月よりSlackに「#rss-全学サイト-在学生向け-all」チャンネルが開設され、在学生向けのお知らせ（<https://www.titech.ac.jp/students/news>）に投稿された記事は、こちらのチャンネルにも自動的に投稿される（※）予定です。こちらにより、既存のHPでの参照に加え

て、Slack上で通知がされることで奨学金情報へのアクセスが今までよりスムーズになります。

(※) 学内ネットワーク限定のページを除く

- ・ 就活情報に関しては、HPでのお知らせ、系・コースの就職担当の先生への情報提供（ポスター掲示の依頼）、学内でのポスター掲示に加えて、サイネージへの掲載、SLACKのキャリア専門のチャンネルを立ち上げ情報発信の強化をしています。

【提言2について】

- ・ 内定者と就活生の交流に関しては、蔵前の業界勉強会、秋のキャリアガイダンス、留学生ガイダンス、K-find説明会、何でも相談会を通じ、内定者と交流する機会を増やしています。

提言 4－5 留学に関する現行の制度の継続・強化

提言

1. 留学奨学金制度の強化・継続
⇒半数近くが留学の障壁として上げる経済的な理由を解消すべく、現行の奨学金制度の強化・継続することを提言します。東工大の取り組みとして30%以上が評価していることから、現行の制度の継続もこの提言に含みました。どの学年もほぼ半数近くが経済的理由を障壁と挙げていることから、課程により対象を絞らずに継続・強化することを提言いたします。
2. グローバル理工人育成コースの強化・継続
⇒留学の障壁として最も多く挙げられている「語学に自信がない」という理由の解消、および12%近くが留学の障壁として挙げる「情報がない」という理由の解消のため、現行のグローバル理工人育成コースの強化・継続することを提言します。本コースを評価する人数・割合は課程別に見ると学士課程が最も高くなっており、これらの学年区分を対象にした留学イベントが有効に機能している可能性も示唆されました。
3. 留学コンシェルジュ制度の強化・継続
⇒12%が留学の障壁として挙げる「情報がない」という理由を解消すべく、現行の留学コンシェルジュ制度を強化・継続することを提言します。その際、修士課程・博士後期課程に比べ、「情報が少ない」を選択する割合が高かった学士課程に少しウエイトを置いた制度の強化・継続が望ましいと推察できました。
4. 留学イベントの強化・継続
⇒現行の留学イベント制度の強化・継続することを提言します。既存の留学イベントは、実際に留学経験のある人が多い層（大学院修士課程3年目、大学院博士後期課程）からの評価が高く、実際の留学のきっかけになりやすい、または留学において有用なイベントとなっていると考えられます。さらには留学の障壁として挙げられる「情報がない」という問題の解消にもつながると考えます。

対応策・実施方法

【提言1について】

JASSOや民間財団等外部の奨学金を獲得するように努める。また、東工大基金への寄附を確保し留学用の奨学金に活用できるよう継続して努力する。

【提言2について】

2024年度よりアントレプレナーシップ教育機構グローバル教育部門において、グローバル理工人育成コースの活動内容を強化していく予定である。

【提言3について】

留学コンシェルジュでの相談は、コロナを経て、Zoom、対面等柔軟に対応しており、件数についてもコロナ前に比べて増加している。学生にも好評であるので対面以外の方法の相談も継続していきたい。

【提言4について】

アフターコロナにおいて、対面での留学イベントが開催できるようになってきた。2023年度の留学フェアも対面・オンラインのハイブリッドで行ったが、その他の留学イベントも対面・オンラインで実施するなど、より多くの学生に参加しやすい方法で開催していきたい。留学フェアでは、高校生等もオンライン参加可能としており、幅広く広報している。

提言 4－6 コロナ収束後のオンライン留学の継続

提言

1. コロナ収束後のオンライン留学継続を提言します。
⇒コロナ禍で海外渡航が制限されるようになった2020年度以降、現地に足を運んで実施されていた留学の代わりにオンライン留学が実施されていたこと、加えて2023年度以降は渡航しての留学へとほぼ完全に返ることが、留学生交流課とのキャンパスミーティングを通じてわかりました（2023年2月現在）。
渡航制限中の代替措置として実施されたオンライン留学でしたが、コロナ収束後も継続をお願いします。学生の留学の障壁として、挙げられた2つの理由（経済的理由:49%、海外生活が不安:33%）はオンラインという形での留学であれば解決されると思われます。

対応策・実施方法

オンライン留学での教育効果等把握しながら、オンラインの良さを活用した活動を継続できるかを検討していきたい。オンラインでの国際交流を実際の留学のきっかけとなるものにするような方向で検討する。

提言 4－7 留学中における医療体制バックアップの周知(コロナ禍前後を通じて)

提言

1. 「コロナ禍における留学中の医療体制のバックアップがどれだけしっかりしているのか周知」することを提言します。
⇒留学生交流課とのキャンパスミーティングを通じ、2023年2月現在、既に本学実地の留学において、留学中の学生に対する医療体制のバックアップは多岐に渡り手厚く用意されていることがわかりました。これらのバックアップの存在の周知が進むと、より本学の学生の留学が推進されると考えられます。

対応策・実施方法

留学を予定している学生については、海外安全オリエンテーションへの参加を義務付けて、本学が契約している危機管理サービス等も含めて留学中の医療体制なども説明している。これに加え、各プログラムのオリエンテーションや説明会でも周知していくようにしたい。

また、留学を考えている学生向けには、本学の留学についての広報媒体等へ留学中の医療体

制のバックアップの仕組みの情報の掲載を充実していく。留学相談があった際にも、こうした仕組みについて説明するようにする。

提言5-1 防災訓練前の動画による広報

提言

1. 防災訓練実施前の広報強化を提言します。具体的な手段として動画による告知を提言します。
⇒動画の内容として、防災訓練の重要性、今年度（2022年度）の防災訓練の内容、防災訓練に参加するメリットや意義などが良いと考えられますが、防災訓練を手伝っている東工大VG（学生ボランティアグループ）や広報の強化に参加したい学生を募集し、そうした学生とともに学生の視点に立って、今後検討していくことを合わせて提言します。

対応策・実施方法

今年度の防災訓練の周知として主に留学生を対象にした動画の作成、引用を検討中。
※PowerPointのスライドショー等動画作成、もしくは他社で使用している動画の引用

提言5-2 Work Podのすずかけ台キャンパスへの設置・用途の拡大

提言

1. すずかけ台キャンパスの設置
⇒すずかけ台キャンパスの設置場所として、附属図書館内もしくは併設のキャリアアドバイザールームが適切と考えます。
2. 利用可能時期を限定した上での「個人での発声を伴う学習・研究及び教育活動」への用途の拡大
⇒Work Podの利用回数の月別変化や就職活動のオンライン面接の割合の変化を考慮して、就職活動での利用が少ない時期には教育活動でも利用できるよう、用途の拡大を提言します。
3. 土日も利用できるよう利用時間の拡大
⇒キャンパスミーティングの回答から、3については現状では実現が難しいようなので、1と2からの検討をお願いします。

対応策・実施方法

【提言1について】

すずかけ台キャンパスの附属図書館には就職活動にも使える個人スペースが複数、既に用意されていますので、Work Podの導入は現時点では考えておりません。

参考URL：https://www.libra.titech.ac.jp/guide/members/seminar_room

【提言2について】

「他大学の例」として共有いただいた、東京大学附属図書館の防音ブースも、信州大学個室型ワークブースも、HPを拝見したところ、4つ用意があるようです。本学のWork Podの個数は2つと限られており、また、近年就職活動が長期化していることから、就職活動以外にも用途を拡大してしまうと、面接したい時に他の用途で埋まってしまう恐れがあります。そのため、現時点では、就職活動以外の活動への用途拡大は考えておりません。

【提言3について】

キャンパスミーティングでもお話しました通り、本学の教職員が不在の状況で起こるトラブルを回避するため、土日利用への拡大は考えておりません。

提言 5－3 生理用品の無料配布

提言

1. 大学構内の主要施設の女子トイレに生理用品を設置する
⇒大岡山キャンパスだけではなく、緑ヶ丘地区、石川台地区、すずかけ台キャンパス、田町キャンパスにも設置する。特に、すずかけ台は女子学生の比率が相対的に高いため、生理用品の設置を急務で進める。
⇒生理用品へのアクセスを高めるために、人を通して生理用品を受け取るのではなく、誰でも気軽に生理用品を利用できる環境を整備する。

対応策・実施方法

学生支援課では、学生支援の一環として、2023年10月から一部課外活動施設等における通年での生理用品の提供を開始します。

2022年12月と2023年5月の2回・各1ヵ月間のトライアルを経て、生理用品の提供に対する学生からのニーズの大きさを確認できました。また、「学勢調査2022」では学生からの提言として「生理用品の無料配布（提言5-3）」があげられました。学生支援課では、生理用品をトイレトペーパーやハンドソープと同様の「ベーシックサービス」として通年提供し、更なるニーズやD&Iに関する意見の収集を行い、ダイバーシティ推進室と連携し、全学展開への検討を進めて参ります。

1. 対象施設

【大岡山キャンパス】

- ・ Taki Plaza2階・地下2階女子トイレおよび1階多目的トイレ
- ・ 西5号館学生食堂2階 女子トイレおよび多目的トイレ
- ・ 屋内運動場 地下1階 女子トイレ

【すずかけ台キャンパス】

- ・ 大学会館・すずかけホール 1階と2階女子トイレ および 多目的トイレ

2. サービスの概要

女子トイレおよび多目的トイレ個室に生理用品のディスペンサーを設置する。利用者は必要に応じて自由に生理用品を利用できる。

提言 5－4 高校生と大学生向けの公開講座の開講

提言

1. 毎週連続で各学院が持ち回りの高校生と大学生向けの公開講座の開講
 - ・ 本講座の対象者は高校生と大学生が基本だが、地域の方やその他の一般の方も聴講可能にする。
 - ・ レベルとしては大学の学士1, 2年生を想定した講義で、高校生にとっては高校の科目を越えた少し背伸びをして聴講したい内容であり、大学生にとっては初めて触れる分野であれば基本の導入部分や概要をつかめるような内容構成であり、一般の方にとってはある程度

- の基礎知識があれば理解できかつ専門的で最先端の研究の話を開けるような内容とする。
- ・ 公開講座のやり方としては、平日の夕方（東大に倣って金曜日の17時ごろが好ましいか）に1時間程度、70周年記念講堂などを利用する。講義を行う教員については、リベラルアーツ研究教育院を含めた7学院の隔週持ち回りで、教員の研究分野の基礎知識や、自身の研究してきた内容、その分野の最先端の研究の紹介などを行う。
 - ・ 2024年度に東京工業大学と東京医科歯科大学の大学統合が予定されており、両大学の学生交流や分野横断的な専門的知識の理解を深めるためにも、重要な取り組みであると考えられる。大学統合は、東京医科歯科大学の教員にも講座を担当していただき、両学生が互いの分野を学ぶ場となることが期待される。
 - ・ 東京工業大学の強みの一つとして、最先端の研究を行っている教員が多数存在していることが挙げられる。この公開講座を通して、教員の研究内容を広く社会に認知されることが予想され、昨今では社会的賛同が必要不可欠な大学の取り組みを学外の方に知ってもらえる場にもなると考えられる。また高校生も本講座の対象とすることで、未来の優秀な学生と教員間のつながりの形成やコミュニケーションの強化、そして新たなアイデアの創出なども期待できる。
2. 現在個別で行っている公開講座の情報を本学のHP上に集約・広報活動の推進、強化
- ・ 提言1の公開講座の前段階として、各研究室や教員がすでに行っている公開講座に本学学生や高校生、その他地域の方々などがさらに参加しやすくなるように、公開講座を開講する際に本学のHP作成の担当部署（広報課など）に連絡をして情報を反映する。東京工業大学の全公開講座が一つのページ上で閲覧できるようにする。

対応策・実施方法

【提言1について】

検討します

【提言2について】

一つの担当部署が本学で行う公開講座の情報を全件とりまとめることは困難なため、実施部局が事前告知をイベントカレンダーに個別に掲載することで、情報を集約しています。また、在学生向け、高校生・受験生向けのお知らせ一覧ではカテゴリ毎に情報をご覧いただけます。

- ・ 在学生向けお知らせ一覧
- ・ 在学生向けイベントカレンダー
- ・ 高校生・受験生向けお知らせ一覧
- ・ 高校生・受験生向けイベントカレンダー

一方、現状では、すべてのイベントがカバーさせていないと思われまますので、今後、イベント情報の登録を促進し、より多くの情報が集約できるような施策を検討していきます。